



大学で教えるということ

—多様化する教育現場のなかで—

大学で講義を担当することになったら…

大学入試の形態、学生間の学力や学習意欲、授業や教育プログラムのあり方など、複数の側面で多様化する大学の教育現場において、どのように授業を行っていけばよいのでしょうか？

本講習会の第1部では、大学での授業支援を担当している方を講師として招き、「学生が学ぼうとする」環境をどのように作り出すか、実践的な講義をしてもらいます。第2部では首都圏の諸大学で教えている本学修了者等を招き、さまざまな授業現場での姿勢や工夫について、経験にもとづいた講演をしてもらいます。院生が「大学で教える」ということについて学べる、数少ない機会です。

奮ってご参加ください。

- 対象者 本学女性大学院生・ポスドク（研究科、課程を問いません）
- 日時・場所 **1月30日（金）13:00-18:00 @マーキュリータワー3508室**
- 参加申込先 キャリア支援室大学院部門（宮澤）miyazawa.kiyomi@dm.hit-u.ac.jp

第1部(13:00~15:00) 学びの場の雰囲気づくり—アイスブレイクの意義と方法—

中西 勝彦 氏

京都産業大学共通教育推進機構：参加型授業のデザイン・運営支援担当。参加者の緊張をほぐすために行われる「アイスブレイク」の実践知を頼りに、学生が「前のめり」になる場をつくる方法について考えます。

第2部(15:15~18:00) 先輩たちの授業づくり—多様化する教育現場から—

今村 純子 氏

女子美術大学、一橋大学、立教大学等非常勤講師。「哲学」「文学への招待」「フランス語」などの科目を担当。言語社会研究科にて論文博士。

小ヶ谷 千穂 氏

横浜国立大学教育人間科学部准教授。「グローバル化と地域社会」「共生社会論」「グローバル・スタディーズ・ツアー」(JASSO-SSSV)などの科目を担当。社会学研究科出身。

野田 浩二 氏

東京経済大学経済学部准教授。「環境経済学」「フレッシュマン・セミナー」「環境プロジェクト特別演習」「環境問題通史」などの科目を担当。経済学研究科出身。